

教育目標：よく考え 進んで学ぶ子 自分も友だちも大切にする子  
正しく判断し 行動できる子 体を鍛え 最後までやりぬく子



学校だより

# 高松

令和6年5月1日 発行

立川市立第五小学校

校長 関口 保司

〒190-0011

立川市高松町1丁目1番25号

TEL 042-523-5238~9

042-523-5230 (こだま学級)

FAX 042-529-0854

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es05/>

## 「当たり前」のその先に

副校長 上野 徹

年明けにグローブをプレゼントしてくれたドジャースの大谷翔平選手は、所属チームが変わってもヒットを打って当たり前、ホームランが数試合出ないと「〇試合連続ノーアーチ」というニュースが出るほど周囲の期待値が高く、当たり前とされるレベルもどんどん高くなっています。手術明けのシーズンにもかかわらず、この文書を作成している時点ではメジャーリーグ30チームの中で打率がトップという素晴らしい成績なのに、少し気の毒な気がします。しかし、大谷選手がこれまでに見せてきた活躍を振り返ると、これからも我々が想像できないようなことをやってくれるのではないかと期待してしまいます。

子どもや学級の成長にも、同じような好循環が生まれることがあります。初めは宿題の量に苦戦していた子が自主学習にもすすんで取り組むようになったり、1学期に担任が繰り返し意識付けしてきたことが浸透していつの間にか自分たちで考えて行動できるようになったり。無限の可能性を秘める子どもたちですから、表出の仕方は様々です。

五小で生まれた好循環の代表が、朝の挨拶運動です。この活動は2年前の6年生児童の発案で始まり、昨年度も6年生を中心に有志のメンバーで続けてきました。そして今は、毎朝、正門付近を見ると高学年だけではなく、まだランドセルが重たそうに見える2~4年生の子どもたちも列を作って後から来る友達と元気に挨拶を交わす光景が当たり前になっています。

5月に入り、新しい学年、新しい学級になって約1か月が過ぎようとしています。これまでの間、どの学級でも取り組んできたことが、学習の進め方や授業中の発言の仕方、朝の会・帰りの会・給食の進め方、そして学級目標などなど、ありとあらゆることの確認です。また、各教室を見て回ると「先生は自分や友達の人権を無視するような行為は許しません。厳しく注意をします。」と、宣言をする場面も見かけました。それらも、いつしか当たり前のことになり、ぐんぐん成長していくことでしょう。その中で、個々の子どもや学級全体の様子を確認しながら、当たり前のレベルを少しずつ高くしていくのが学校の役目です。そのために、日々、各学級・学年、または専科や教科担任同士の打ち合わせを重ねながら指導計画や子どもたちの実態を振り返り、次なる準備を進めています。

5月11日(土)には、本年度第1回の学校公開を実施します。保護者の皆様には、ひとつ上の学年に進級して新しい環境で学ぶお子さんや授業の様子をしっかりと確認していただければと思います。そして、心配なこと等がありましたら、遠慮なく学校までご連絡ください。